

孤発性クロイツフェルト・ヤコブ病 MM1/古典型の早期脳波における正中矢状面の高振幅鋭波の出現頻度の解析

研究分担者: 三條 伸夫 東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科脳神経病理態学(脳神経内科)

MM1/古典型sCJDのミオクローヌス出現前の最初期の脳波は以下の2パターンに分類できた。

1. 正中矢状面型 : 62.5% : 右図上段
2. PLEDs型 : 37.5% : 右図下段

いずれのパターンも2-4ヶ月後にはPLWDs (PSD) へと移行し、临床上ミオクローヌスが見られた。

図1 MM1 definite 正中矢状面対称性突発波群の脳波推移、MRI所見 (A: 病初期脳波 B: 進行期脳波 C: 病初期MRI)

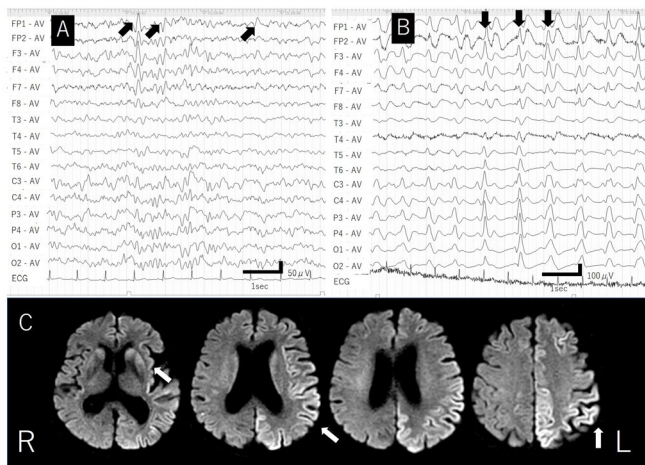
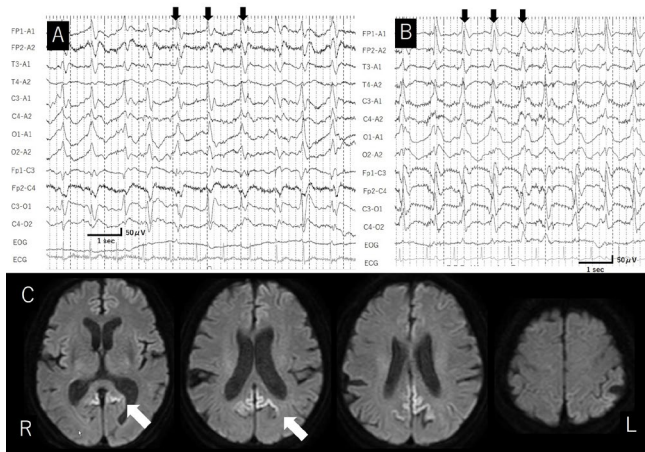


図2 MM1 definite PLEDs群の脳波推移、MRI所見 (A: 病初期脳波 B: 進行期脳波 C: 病初期MRI)



解説

1. 検討したMM1/古典型sCJD群8例の病初期の脳波で、5例(62.5%)はMRI上の皮質高信号領域(図1C)とは一致せずに、正中矢状面(Fp、C、P、O)に沿ったほぼ対称性の高振幅鋭波または棘徐波複合を認め(図1A)、5例のうち4例が平均3.25カ月(2-4カ月)でPSWCsに移行した(図1B)。
2. 3例(37.5%)はPLEDsを呈した(図2A)。